

# 探究学習の現場から

唯一の市立高校として  
地元と生徒にできること

首都圏への人口流出が続く、中心部はシャッター通り。地元企業の事業継承も危うい。そんな地元前橋市の中で、唯一の市立高校が本校です。前身は女学校だったことから市民から「市女」と親しまれてきました。そんな本校が地域に対してできることは何か？ そう考えて始めたのが、地元を元氣

地元前橋を支え、元氣にする。

将来、われわれと共に働く

前橋市民を育てたい。

## 第3回 前橋市立前橋高校

▶設立：1929年 ▶種別：全日制／普通科／共学 ▶生徒数：1学年約240人  
▶校訓は「進取・自律・創造」。【地域活性化プロジェクト「めぶく」】は第9回キャリア教育推進連携表彰優秀賞受賞  
▶2020年度合格実績(現役のみ)：国公立大は、群馬大、筑波大、群馬県立女子大、前橋工科大などに、21人合格。私立大は、立命館大、東洋大、共愛学園前橋国際大、高崎健康福祉大、高崎商科大などに延べ193人が合格



進路指導主事

### 田崎 潤

たさきじゆん ●東京、千葉で教壇に立った後、1999年に群馬に移り、現任校では学年主任、進路指導主事を担当。



▲ブレインストーミング演習の様子。「何を言っても必ずほめる」というルールの下、専用カードを使って思いついたアイデアを随時に次々発表する。意見を出しやすい雰囲気づくりが狙い。

## 市立前橋高校の探究学習

**内容** 前橋市活性化に向けた提案を高校生の視点でまとめ、市に提案する。1年次に商店街インタビュー等で地域課題への理解を深め、2年次に模擬市長選挙、模擬議会を実施。これらの経験を進路選択につなげる

### 対象・期間・時数

・1～3年次の「総合的な探究の時間」を活用(週1時間実施)

### 体制

・地域の行政、市議会、教育機関(大学等)、商店街、民間企業などと連携し、「オール前橋」の体制で進める

### テーマ例

・「前橋市の活性化」が大テーマ。チームを組んで地域の将来について考える

### 評価方法

・「6つの力」を軸にしたルーブリックに基づき生徒自身が自己評価  
・各活動を終えた段階で、必ず発表・振り返りの時間を設ける

## 地域活性化プロジェクト「めぶく」の流れ(2年次9～12月の授業を抜粋)

行事	内容	協力
ブレインストーミング演習(全2回)	ブレインストーミングの手法を用い、住みたい町と住みやすい町について考える。	・高崎商科大学(講師、学生) ・地元企業(社会人48人)
模擬市長選挙ワークショップ①～③	前橋市活性化に向けた高校生目線の提案を考える。	・共愛学園前橋国際大学(学生)
市議会議員講演会	前橋市議会議員の方々の前橋市に対する思いを聞き、自分たちが考えた前橋市への提案について意見をいただく。	・前橋市議会議員12人
模擬市長選挙ワークショップ④	選挙準備をする。たすき、ポスター、原稿完成、発表練習などを行う。	・共愛学園前橋国際大学(学生)
模擬前橋市長選挙立会演説会	各クラスに1人配置する大学生を市長候補として、前橋市活性化に向けたマニフェストを発表する。投票・開票・当選発表までを行う。	・共愛学園前橋国際大学(学生) ・前橋市選挙管理委員会 ・明るい選挙推進委員会
前橋市高校生模擬議会準備(全2回)	模擬前橋市長選挙で各クラスで検討したマニフェストにさらに磨きをかけ、クラス代表が発言する準備をする。	—
前橋市高校生模擬議会	各クラスの代表3人が前橋市活性化への提案を行い、前橋市からの回答をいただく。	前橋市議会・前橋市

\*学校資料を基に編集部で作成。

**将来の町を支える市民づくりへ**  
本年度から前橋を住みたい町にするためのアイデアがもつと出るようにと、ブレインストーミングを教育に取

地域に入って経験を積むうちに生徒は変わりつつあります。本校では3年間で育成をめざす力として「6つの力」を設定し、定期的に自己評価をさせています。入学時の調査では、「協働力」が高い一方で、「リーダーシップ」が低い傾向だったのですが、2年次では「学びに向かう力」や「リーダーシップ」の評価が向上しました。進路選択にも変化が現れました。「めぶく」で取り組んだテーマをもっと深めたい」と大学進学をめざす生徒が現れ、「地域のことを学びたいから、地元が大学がいい」という生徒も増加し、かつて5割程度だった地元進学率が7割程度になっていきます。活動中に地元大の大学生と接する機会が増え、大学での学びや成長をリアルにイメージできるようになったことが要因でしょう。

## 大学への期待

### 大学の教育力は学生でわかる 現役学生の派遣を期待

出前授業ばかりが高大連携ではありません。私は、現役の学生と高校生がつながる機会が増えることを期待します。高校生は学生の姿を通して、その大学の教育や自身の成長をイメージしやすくなりますし、大学にとっても、高校を「学生を鍛える場」として活用できるメリットがあると思います。

「めぶく」は、最終的に3年次で自分が究めたい学びから進路先を決めることをゴールにした探究学習です。そのため、1年次では前橋の課題探究、2年次では興味がある課題の発見、3年次ではこれまでの探究を基に自分の進路を決めることにチャレンジするという流れで設計しています。最大の目玉は、2年次に実施する模擬市長選挙です。これは地元活性化に向けたマニフェストをクラスごと

に考えてプレゼンをし、選挙戦を戦うもの。アイデア出しから選挙準備、選挙から当選発表まで生徒が行い、マニフェストは実際に市議会に提案し、回答をもらいます。魅力的なアイデアを出すためには、地域の課題の理解が必要ですから、1年次に地元の企業や商店街にインタビューを実施して、地域の現実を認識させるようにしています。

このように「めぶく」には地元の協力が不可欠です。行政には模擬選挙で選挙管理委員会の協力を求めたり、市議会議員に質問をする機会も設けてもらったりしています。企業にはインターンシップで協力を求めています。これは単なる就業体験ではありません。例えば農業の会社では、今は土を使わずに農産物を生産し、食品加工会社では焼鳥の原料となる鶏肉を南米から輸入していることなど、最新の企業活動について知ることが目的です。また、多くの外国人従業員が働いている姿を実際に見ることで、前橋と世界のつながりも実感できるでしょう。地元の大企業によるサポートも助かっています。大学の先生にインタビュー調査のレクチャーを受けたり、大学生にワークショップの手伝いを頼んだりすることもあります。

「めぶく」を始めたことで、外部との教育連携の輪が広がっています。例えばJICAと組んで在留外国人の方によるグローバル視点を与える授業も実施予定です。さらに今後は近隣の中学校と連携し、中高で地域を支える教育に取り組めないかと考えています。今では「海なし県の群馬に、廃校跡に『海』をつくって、単価の高いフグを育てる産業を興そう」といった斬新な案も生徒から出るほどになりました。5年後、10年後、一緒に前橋を支える若者が数多く出てきてほしいと願っています。

\*「学びに向かう力」「課題発見力」「自己管理能力」「計画立案力」「協働力」「リーダーシップ」の6つを設定

地元の進学率が5割から7割に急上昇

「めぶく」は、最終的に3年次で自分が究めたい学びから進路先を決めることをゴールにした探究学習です。そのため、1年次では前橋の課題探究、2年次では興味がある課題の発見、3年次ではこれまでの探究を基に自分の進路を決めることにチャレンジするという流れで設計しています。最大の目玉は、2年次に実施する模擬市長選挙です。これは地元活性化に向けたマニフェストをクラスごと